

## 第6期 第3回与謝野町子ども・子育て会議

### 会議報告書

日 時	令和5年10月26日(木) 午後7時30分から午後8時45分まで
会 場	元気館2階 視聴覚室
出席者	別添名簿のとおり(出席:12名 欠席:4名)
配布資料	◇会議資料:次第、与謝野町幼保連携型認定こども園整備計画(案) 未定稿 ~抜粋~ 子ども・子育て会議の意見(資料1)、認定こども園に係る町の方針について(資料2)
会議要点	◇議事 ➤ 野田川地域認定こども園整備に係る町の方針について(町長説明) ➤ その他
議事要旨	下記のとおり

#### 1. 開会

#### 2. 会長挨拶

町長より、これまでの背景、経過等を含め、野田川地域認定こども園に関する整備方針、今後の予定等を説明いただくことになっている。忌憚のないご意見を願いたい。

#### 3. 議 事 (要旨)

##### 野田川地域認定こども園整備に係る町の方針について(町長説明)

与謝野町の方針として、各地域に1園ずつ新園舎を建設し、子どもたちに安全で豊かな環境の中で適切な教育・保育活動を提供していきたいと考えている。

既に岩滝地域、そして加悦地域においては、それぞれかえでこども園、つばきこども園が新築によって開園をしている状況にある一方で、野田川地域における認定こども園については、2018年前後に現在の野田川中央公民館付近の公共施設を除却・解体した上で、新築の認定こども園の建設をしていきたいといった方針を発表したが、住民の皆様方の幅広い理解を得るには至らなかったことから、計画を一旦白紙としている。

昨年春に、与謝野町長選挙、議会議員選挙が執行され、その選挙において、この停滞する議論を何とか前に進めたいとの思いから、野田川地域における認定こども園の設置場所については、現在野田川地域で運営しているこども園、保育所の用地を基本とした整備計画を取りまとめていきたいという方針を発表し、住民の皆様方にも一定の評価を得たものと考えている。

選挙の結果を受け、昨年度については、庁舎内にプロジェクトチームを設置し、のだがわこども園、石川保育所、山田保育所の3園を活用した整備の可能性について検討を進めてきた。この検討を進めていく中では、大きく三つの評価軸を設定し、比較検討を行った。

1つ目は十分な敷地を確保できるか、2つ目は交通事情、3つ目には災害等への対応という視点を中

心にそれぞれの比較を行ってきた。

評価結果に基づき、一定の方針を固めていたが、一方で与謝野町の公共施設等マネジメント推進委員会という与謝野町の公共施設全体を議論する会議での議論の進捗があり、昨年度内での決定は行わなかった。

このたび公共施設等マネジメント推進委員会において、野田川地域における認定こども園の設置については、急務であるといった、第一次答申をいただく中、今年度の具体的な歩みなどについて検討を進めてきた。

9月定例議会において、野田川地域の認定こども園の設置場所に係る一般質問を承る中で、野田川地域の認定こども園の設置については、石川保育所およびその周辺において、建設をしていきたいということの方針として公表した。

3つの視点を軸に評価した結果、石川保育所及びその周辺の土地であれば、整備計画の実現性があり、その他の2園については、特に敷地の拡張性という観点から厳しい状況にあった。方針を公表し、10月からは野田川地域の3つの就学前教育・保育施設の保護者に対し、方針説明を行っている状況にある。この方針に対し様々な質問や疑問点を伺っており、一つ一つに答えながら、現在のこの方針をより具体的な計画に落としていきたいと考えている。説明会においては、令和9年度中の竣工を目指していることを申し上げている。

11月以降、整備計画案を中心に再度3園の保護者に説明を重ねていきたいと考えている。

子ども・子育て会議の皆様には、この間、会議の運営を通じ、与謝野町で育つ子どもたちの健全な発達を支えていくために、野田川地域認定こども園の整備のみならず、様々な子ども・子育て政策のあり方について、議論をいただいていると認識している。

本日は、この方針に対し意見を伺ってきたい。

### 各園説明会での状況について（坪倉課長）

石川保育所での説明会には、15名の保護者の方に参加をいただいた。なぜ石川保育所が予定地となったのかという質問については、特に用地確保の点で石川の地域が他の場所よりも優位であったことを回答し、周辺の土地の確保見込等については、地権者に関わることであり応えていない。交通事情を懸念する意見もいただき、しっかりとした対策を行い、計画していきたいと回答している。

令和6年度末で、石川保育所を閉園した後、全員が山田保育所へ行きたい場合は受け入れが可能なのかという質問には、山田保育所で石川保育所の全園児の受け入れが可能であること、山田保育所に限らず、町内の公立園、民間園に通園していただける選択肢があることを回答している。

認定こども園での土曜保育の内容については、保育所と同じく土曜日は午前中保育を現在行っていること、町内に3つのこども園が整備できた時点で、土曜日の1日保育についても検討していきたい旨を回答している。

のだがわこども園での説明会には、10名の保護者に参加をいただいた。

祖父の方が2名参加された。

野田川地域の中心は市場地区だが、なぜ石川になったのかという質問が出され、石川保育所での説明と同様に回答している。

石川保育所の園児が建設中に転園することについての保護者の反応、石川保育所の園児を気遣う意見をいただき、説明会の中では、保護者からは転園に対して意見は出ていないことを回答している。

また既に新園舎が開園しているかえで・つばきこども園の保護者の開園後の意見・反応についてを聞かせてほしいとの意見もあり、次の説明会で回答することとしている。

山田保育所の説明会には、5名の保護者が参加された。

山田保育所で石川保育所の園児を全て受け入れることができるのか、クラス数や保育士の体制面への意見については、石川保育所の全園児を山田保育所で受け入れることは可能であること、園児数によって適正なクラス運営ができる職員を配置することを回答している。

石川保育所を運営しながら新園舎の整備であれば、園児及び保護者の負担が軽減されるのではという意見については、運営しながらの建設は難しいと判断していることを回答している。

不安材料を解消した上で、進めてほしいという意見もいただいております。今後、複数回の説明会を行い、多くの皆様に納得いただけるよう説明会を重ねていくこととしたい。

説明会の中でいただいた質問や意見については、全保護者に対しQAとして配布することとしている。

(意見)

人材確保が難しくなっている昨今、こども園の教育プログラムはどうなっているのか。

(回答)

幼稚園の教員免許と保育士の資格を併せ持つ職員を認定こども園では保育教諭としており、施設長中心に2つの資格を持った職員が内外での研修を積み、認定こども園としての機能を充実させている。

今後の保育の質の担保、向上についても同様に研修を重ね、質の担保に努めていきたいと考えている。

(意見)

今後の園児推計は描かれているのか。

現状、保育教諭が不足する場合、会計年度任用職員で対応されていると思うが、今後もその対応が可能なのか。

(回答)

2つの保育所と1つのこども園が一緒になることによって、園児数が増えることになる。

現状、正規職員の全員が2つの資格を持って取り組んでいただいている。正規職員が不足する部分は、現在も会計年度任用職員により対応している。会計年度任用職員の先生におかれても、講習等を受講し資格を取得されたり、各種研修等へ参加されるなどスキルアップに努めていただいている。

園児数については、残念ながら今後減少していくと思われるが、職員数については園児数に見合った職員数を確保することとしている。職員が不足する場合は会計年度任用職員を採用する。

(意見)

町の総合計画では10年ぐらい先には、園児数が大きく減少してくる予想となっている。

野田川地域のこども園が4年後に設置され、200人ぐらいの園児数を想定したとき、職員が多すぎる又は不足する場合等に対応できるのかということも課題と考える。

保育教諭を確保することが難しいということを聞いており、きちんとした数字を掴んでおいていただきたい。

(意見)

石川保育所の説明会に参加した。他園での参加人数の報告を受けたが、参加人数が少ないと感じている。保護者の立場でいえば、4年後の設置ということもあり、今通園している園児が対象となる、ならないということも参加人数に関係しているのでは思っている。

次回以降の説明会には、他の保護者の方もたくさん参加され、いろいろと質問されることが望ましい。今の段階では、質問事項が整理できないと思うが、計画が進むにつれて質問事項もでてくると思う。

石川保育所周辺に設置されるにあたり、現在の進行状況を教えてほしい。

(回答)

保護者説明会に参加をいただける人数が限られていることに関して、今後、より具体的に整備計画をお伝えしたいと考えており、その際には、多くの保護者に出席いただけるようしっかりと広報していきたい。

今後、認定こども園に入園を予定している保護者に対しては、子育て支援センターでの説明会において、野田川地域での認定こども園は石川保育所およびその周辺の土地で考えていきたいということをお伝えする。

説明会を重ねていく中で、これまでの意見や質問事項についても報告し、広報等を通じ、機運の醸成という意味も含め、しっかりと告知していきたい。

現在の進行状況として、石川保育所の周辺用地の確保という点については、一定の見込みを持っており、整備計画を進めていけるものと考えている。

(意見)

資料 2 を見て、初めて石川保育所と山田保育所が統合されることを知ることになる。

保護者に予め資料を配布し、質問が用意できるような状況を整えれば、聞きたいことがある保護者も増えると思う。

(回答)

各園 2 回の説明会が終わった後、保護者へ配布する予定としていたが、速やかに保護者へ配布していく。

(意見)

若い世代の方に見ていただける仕掛けとして、YouTube、KYT 等で視聴できる環境を工夫してほしい。

(意見)

各園での説明会、それぞれ 15 名、10 名、5 名という参加者となっているが、開催する時間帯によっても参加しやすい、しにくいということがあると思う。Q&A も含めさくら連絡網、文書の両方で資料を配布してほしい。

当日参加できない方については、各園の保護者会に協力いただき、事前に質問票を配って意見を集約するなど参加者だけではなく、参加できない方からも事前に意見をいただくことも有効である。

(意見)

資料 2 に山田保育所と石川保育所を一旦統合して、認定こども園化を検討するとなっているが、どういう意図があって検討されるのか。

(回答)

石川保育所の解体から新園舎の建設中は、石川保育所の園児は他園に移動いただくこととなり、石川保育所は閉園という形としたい。

石川保育所園児の受け入れができるよう、山田保育所園舎の環境を整えることとしている。又、石川保育所の全保護者が山田保育所を希望した場合においても、受け入れは可能な施設であると考えている。

保護者の希望に応じ、山田保育所以外の園を選択いただくことも可能である。

今後、与謝野町の就学前教育・保育施設については、こども園化をしていく方針としており、山田保育所と石川保育所を統合する時点で、こども園に移行していきたいと考えている。

(意見)

こども園化により山田・石川保育所を一旦閉めることは、長い歴史がある慣れ親しんだ園舎を閉めることになるが、三河内幼稚園を閉園した際には、コロナの影響もあり閉園行事ができなかった。

山田保育所をこども園化するメリット・デメリット、狙いは、山田保育所の説明会では意見はなかったのか。

(回答)

与謝野町の就学前教育・保育施設は、認定こども園化を目指している。新園舎による認定こども園におい

て、就学前の教育活動を行っていくことは確定しており、少し前倒して、認定こども園化を行うことが、保護者、園児にとってメリットになると考えており、園長会でも議論いただいている。

40 数年に渡って歴史を積み上げ、地域の中でもコミュニティのハブとしても機能してきた 2 園をどのような形で、区切りとスタートを切るのかについては、保護者、地域の方々の意見を聞きながら最適な方法を見出していく必要があると考えている。

(意見)

こども園化を検討するということは、どういうプロセスで検討されたのか。

(回答)

現時点で、2 つの保育所を認定こども園化することは決定事項ではない。

保護者との対話によって決めていくべきものだと考えている。

(意見)

対話による決定が望ましい。

(意見)

保育所が幼稚園の機能を持った認定こども園に移行することに、特にデメリットはないように感じている。

デメリットや懸念することがあるのか。

(回答)

デメリットということはないと思う。

のだがわこども園も元々市場保育所から閉園という形で在園児を抱えたままこども園に移行し、市場保育所でも入園し、のだがわこども園で卒園した子どもたちもいる。山田に関しては石川の園児を受け入れるということで 2 園が一緒になるが、保護者の立場からすると正直何も変わらない。

2 時帰りの園児が増えることだけで、2 号認定の保護者は、園の名前が変わっただけで何が変わったのかは、わからない方も多くいると思う。

保育所は保護者が働いていなければ入れないが、こども園では、出産で一旦仕事を辞められたとき等、保育所では退園しないといけませんが、時間は変わるが退園せずに 1 号認定として通うことができる。親の仕事で子どもに影響がないことはメリットである。

(意見)

町に新しい建物が建つことに良い反応を示される方が少ないという印象をもっている。

前回の計画が白紙となり、2 回目ということで、子どもたちに早く安心安全な環境での保育を開始して欲しいという思いがあるが、石川の予定地で整備する場合、これまで以上に経費がかかるということであれば、反対意見が出てくると思われる。

(回答)

野田川中央公民館付近での認定こども園を建設する計画について、住民説明会等を重ねたが、計画案については理解を得ることができなかった一方で、野田川地域に新たな就学前教育・保育施設を建設することに反対しているわけではないという声を聞いている。

整備計画自体をしっかりと練り上げていかないと、個別の事象に対する理解を得ることが難しく、前回の教訓もあり、地域への住民説明もしっかりと尽くしていく必要があると考えている。

石川保育所周辺土地に関して、多くの予算が要るのではないかという指摘については、現時点での予測においては、一定加味しながらの整備計画案を立てることができると思っており、想定予算の中で、一定程度吸収できると考えている。当地域の印象として、道路が冠水するというイメージがあり、しっかりとした説明と対策を

かねた整備計画を進めていくことを繰り返し説明していきたい。

与謝野町の財政は、一般会計、特別会計総額で約 200 億を超える予算を編成しており、約半分の 120 億円が一般会計となっている。120 億円の一般会計のうち、30%弱が自主財源でその他の財源については、国等の交付金によって成立をしている状況にあり、非常に脆弱な財政基盤となっている。

令和 4 年度の決算では、単年度黒字であり、これまで借金をして様々な投資を行ってきたが、借金の額も過去最少になっている。また、約 50 億円の基金を有しており、財政基盤としては非常に厳しい状況ではあるが、財政の健全化と学校給食センターと認定こども園の新築については、両立できると考えている。

KYT 等を通じて、与謝野町の財政状況を専門家と議論した内容も放送しており、説明会、KYT を含めた情報発信のツールを十分活用しながら、今後も与謝野町の財政の状況を伝えていくこととしたい。

(意見)

野田川地域には認可外保育所、小規模保育所という保護者の選択肢がある。180 人規模の定員を予定されているが、公立に通っていた園児の保護者の多くが民間保育所を希望した場合、どの段階でその規模・定員の見直しを行うのか。

(回答)

町のこども園への入園希望者全員を受け入れできる定員数を確保したいと思っている。

令和 9 年度の野田川地域の園児数 0～5 歳児で 200 名程度と想定しており、民間保育所や家庭で保育される方等を考慮しても、現在のところ 180 名程度は必要と考えている。

(意見)

学童保育のことも、こども園の延長線上にあると思う。待機児童の現状は。

(回答)

学童保育については、社会教育課の所管となる。現状、待機児童の解消に向けた協議・検討がされていると認識している。

(意見)

のだがわこども園での保護者説明会の参加者が少なかったということに関して、保護者全員の意見を聞いているわけではないが、年長・年中・年少の保護者は令和 9 年度の設置であれば関心がやすいのではと思っている。

令和 9 年度の開園に関係あるのは、0 歳児の保護者のみであり、その保護者が 19 時 30 分からの説明会に参加するのは厳しく、入園間もない保護者であれば質問することも難しい。

2 回目の説明会は、11 月の保護者会行事の開催日に予定している。

1 回目の説明会には、祖父母が 2 名参加されたが、石川という場所は水に浸かるとか、なぜ野田川地域の中心地に設置しないのかと質問があった。

保護者としては、前回計画が白紙になり、2 度目なのでこれ以上遅れて欲しくない、早くしてほしいと思っている。野田川の中心に建つのがよいと思う保護者もいるが、石川になるのであれば、石川が水に浸かることは承知のことであり、対策を取ってくれるという説明がなくても保護者は理解している。

石川保育所閉園の際、のだがわこども園を希望される保護者が多かった場合、どこまでは受け入れが可能なのか。

(回答)

のだがわこども園の定員は 150 名で、現在の園児数は 120 数名となっている。

0～2 歳児は受け入れができない状況にあるが、幼児であれば受け入れは可能である。

山田保育所であれば、石川保育所の園児を全員受け入れられる環境にあると考えている。

(意見)

説明会の開催にあたっては、保育ルームの設置、場所、時間帯、曜日等を創意工夫していただきたい。

(回答)

予定している日程で行う説明会においては、全て保育ルームを確保している。

11/23日 のだがわこども園での説明会は、祭日にある行事に合わせ開催することとしている。

(意見)

今、こどもまんなか社会ということが言われており、このこども園を作っていく中で、就学前教育・保育の大切さを、保護者をはじめ多くの方々に周知していく必要がある。

少人数の園がよい、石川保育所がなくなるのは寂しいといった意見等があるが、新しいこども園を作っていくことの大切さや、こども園の素晴らしさ等、どのような教育・保育がされているのかをうまく発信してほしい。

地域には、学校よりは配布されるが、園便りは配布されない。

子どもたちのプライバシーのこともあり、ホームページで見ることもできない。

議会だよりに掲載されている保育所・こども園のことを話題にされる地域の方もおられ、子どもたちが通っていくこども園を応援していく気運にしていく必要がある。

財政問題や場所等、ハード面だけが話題になっているが、ソフト面である教育・保育の内容についても話題にしていくことも大切である。

(意見)

全ての園舎が新しくなるということは、町の大きな魅力であり、子育て世代にとっても魅力的であると思う。

新しい園ができるという魅力を大きく打ち出して、園児を増やす取組、若い人が定住していただける取組をお願いしたい。

(回答)

たくさんのお意見や思いを聞かせていただくことが、今後、こども園を設置していくにあたり、欠かせないことであると感じている。財政が厳しい中で新しい認定こども園を整備していくことは、町内の子どもたちが、同じ教育・保育が受けられる環境の整備だと考えており、単なるハード整備ではないということの子育て応援課の共通認識としている。より良い園整備ができるよう今後も助言をいただきたい。

～配布資料～

資料2は、保護者説明会で配布しており、内容等は時点で修正している

資料1は、10月中に取りまとめる予定としている、認定こども園の整備事業整備計画案からの抜粋となっている。計画の中に、与謝野町子ども・子育て会議の意見を記載している。

(意見)

内容について、特に意見なし

その他

4. 閉会